



キーワードは「出会い」 紙芝居をとおして子ども達にふるさとを 大切にすることを育んでほしい

「紙芝居のはじまり、はじまりい〜」。今年の4月30日、市に紙芝居（45冊・大判2冊）が寄贈されました。タイトルは「たなばた食堂」。入間川七夕通り商店街の皆さんの善意による寄贈です。

この「たなばた食堂」の作者が、青柳在住で童話・紙芝居作家の中村ルミ子さんです。小さいころから童話や小説

を書きたいという夢を持ち、育児の合間に童話の創作を勉強しながら、機関紙へ投稿していた中村さん。あるとき、地域内で子どもと本をつなぐ活動をしていた「あおやぎ文庫」に出会います。都会で暮らし、地域とかかわることがなかった中村さんにとって、自分も何かお手伝いができたらいいなという気持ちが芽生えたときであり、その後の活動の原点になりました。

平成3年には、福島正美SF童話賞に入選して初めて本が出版され、童話作家としての活動を始めていた中村さんに転機が訪れたのは、故右手和子さん（紙芝居実演・研究家）の講演を聴いたときです。

「紙芝居って、なんて面白いんだろうかと思いました。最初は、童話より下に見ていましたが、私もやってみたい、読んでみたいという気持ちになりました。童話と紙芝居は全く違います。紙芝居ほど読み手

のキャラクターが出るものはなく、伝える力も強いと思います。『共感し合っつてメッセージを伝えられる』紙芝居を演じる楽しさに魅了されました」と、中村さんはそのときの衝撃を振り返ります。

その思いから、ある出版社の紙芝居作家塾に4年間通い、ついに、平成12年に紙芝居「さくらさん けやきさん」を出版します。

そして昨年、入間川七夕通り商店街の吉田早苗会長との出会いから誕生したのが、この「たなばた食堂」です。脈々と受け継がれる伝統に、新しい力が加わったとき、さらによいものが生まれるのではないかと。それは、人がつくるものであり、「出会い」が大切になるという思いも込めました。

「お祭りは、地域のコミュニケーションの最たるものです。そこに子どもも参加して大人と交流し、ふるさとを大切に

する心を育んでほしいと願っています」と語る中村さん。

さらに、「紙芝居は、心にしみるメディアなので、子どもだけでなく、大人向けのものも描いています。子どもから大人まで楽しめる、そして自分も楽しんでいきたいんです」と続けてくれました。

「たなばた食堂」は、市内の公立小・中学校に配布され、子ども達が狭山の七夕まつりを知り、ふるさと狭山の理解を深めるために活用されています。また、今年の七夕まつりでは、たまり場ショップ「いるまおい（4ページ参照）」で中村さんによる実演もあります。さあ、今年の七夕まつりでは、どんな「出会い」が生まれるのでしょうか。



4月30日の寄贈式で、中村さん(写真右)による「たなばた食堂」の実演がありました(左: 仲川市長、中: 吉田入間川七夕通り商店街会長)



童話・紙芝居作家
中村ルミ子さん(青柳)

私の宝物 …

小さいころ出会った1冊の絵本

私の宝物は、幼稚園の時に
出会った「きょうはなんの
ひ？」(瀬田貞二作・林明子絵・
福音館書店)という絵本です。



田口麻美さん
(北入曾在住)

この絵本は、子どもの好奇心
をくすぐるようなストーリ
ーで、私だけでなく、弟や妹も
すぐに引き込まれました。「お金
をかけなくても、温かみのある
プレゼントができる」という、
家族を思う気持ちが、心に「じ
ーん」と伝わってくる作品です。

大人になっても変わらずにこの
絵本を大切に思っていたので、
結婚する前に自分用に1冊購
入しました。子どもがお腹に
いるときから、胎教にと思って
読みましたし、生まれてから
も、この本を読み聞かせまし
た。私と同じようにこの本を
好きになってくれた子どもに、
この絵本もやさしい気持ちも
変わらず大事にしていってほ
しいと思っています。



ずっと手元に置いてお
きたい1冊です

今回は、上赤坂にお住
まいの方を紹介します。



節電の取り組みを通じて、自治会員の絆も
強まりました

私たちの自治会は、新狭山駅南口に位置し、本
田技研工業(株)埼玉製作所に隣接しています。商
店、マンション、戸建など、500世帯が加入す
る自治会です。

昨年12月、自治会館の屋根にホンダソルテッ
ク製のパネルを載せ、NPO法人さやま環境市
民ネットワークによるマイタウンソーラー発電
所の市内第二号機として、発電を開始しました。
モニターで、常時発電量と使用量が表示され、節
電に対する自治会員の意識も向上し、電気使用
量を減らすことができました。今後は、防災に対
する備えや意識の向上にも、一層力を注いでい
きたいと思えます。

くさやま自治会

新狭山三丁目自治会

仲間たち Vol.382

H-Batton Ballare



エイチバ
トンバッ
ラーは、メ
ンバーの保
護者が2年
前に立ち上
げた市内初

のバトントワリングクラブです。

メンバーは幼稚園の年中から小学生を中心にし
た15名。「技術習得をとおして、心身ともに強く優
雅に成長して欲しい」と語る花井利佳子監
督(元全日本選手権グランドチャンピオン)の指導
のもと、狭山市のお祭り、イベントの出演や大会出
場を目指して、楽しみながらも時には厳しく練習
に励んでいます。バトントワリングは、初心者でも
参加できるコンテストがたくさんあり、気軽さも
魅力の一つです。皆さん一緒に楽しんでみませんか。

問合せ白井純子さんへ ☎2955-8795

狭山歴史のしおり

八幡神社

はちまんじんじや

八幡神社は旧入間川村の総鎮守です。創
建年月は不明ですが、同社に残る『八幡神社
縁起』によると、「正慶2年(1333)5月
に新田義貞が鎌倉幕府を攻めるため当地へ
兵を進めた際、戦勝祈願に参拝した」とあ
り、境内には義貞が馬をつないだという「駒
つなぎの松」があります。

本殿は市指定文化財で、ほかに県指定文
化財「さりの壺」があります。また、毎年、
9月中旬には市指定文化財「八幡神社鹿子
舞」が奉納されます。



●文化財データ
地区／入間川地
区 祭神／応神
天皇(菅田別命)
合祀神／天照皇
大神・春日大神

今回紹介した神社は
ホームページで詳しく
解説しています。